

□海外文献紹介□

大腸癌患者の無症状第Ⅰ度近親者での内視鏡による大腸癌スクリーニング

Colonoscopic screening for neoplasms in asymptomatic first-degree relatives of colon cancer patients: *Guillem JG, et al* (Dis Colon Rectum 35: 523-529, 1992)

大腸癌の家族歴のある人は、大腸癌のハイリスク者と認められている。

著者らは、これらの人での大腸内視鏡によるスクリーニングの妥当性を評価するために、無症状の第Ⅰ度近親者(以下FDR)に大腸癌のある181人とコントロール群83人で、

プロスペクティブに大腸内視鏡検査を行った。

腺腫がFDRでは14.4%、コントロールでは8.4%に発見された。FDRが1人の群で13.8%、2~3人群では23.8%であった。

腺腫の占居部位は、脾彎曲より近位にFDR群で48%、コントロールで23%を示した。このことは、S状結腸鏡でのスクリーニングがFDR群では不十分であることを示している。

無症状で大腸腺腫を有する最大のリスク群は、50歳以上の男性のFDR群で、40%に腺腫を認めた。年齢を符合させたコントロールの男性では20%であった。

可能性曲線を描くと、FDRに大腸癌が1例ある男性では、40歳で腺癌が発生するという。

この研究では大腸癌例はなかったが、発見された腺腫の異型の程度は、FDR群でコントロールに比べ明らかに強かった。

結論として、FDRに大腸癌がある人、特に40歳以上の男性では、大腸内視鏡検査のコストや合併症のリスクを考慮してもなお、大腸内視鏡によるスクリーニングの妥当性を支持している。

(愛知県がんセンター消化器内科

小林 世美 抄)